

課題対応取組報告書

【共通】

名称	阿倍野区北部地域包括支援センター
提出日	令和 7 年 5 月 17 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設 (居場所づくり等) <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	多様な機関と連携して、地域の中に相談窓口を広げていく	
地域ケア会議から 見えてきた課題	認知症や精神疾患、家族問題など複合的な課題を持つケースが増えている。 介護支援専門員からの対応困難ケースの相談件数が増加し、個別ケースの会議回数が増えている。 地域からの相談が減少している。	
対象	地域住民、支援関係機関など	
地域特性	高松地域：地域を大きな道路が分断していて南北で地域活動への参加率に違いがある。 文の里地域：昔ながらの一軒家が多い。会館が地域の真ん中にあり住民が活動に参加しやすい。 常盤地域：人口が多く高齢化率は低いが高齢者人口は多い。地域の会館が3か所ある。 金塚地域：全域にわたってマンションや商業施設が立ち並んでいる。マンション住居者の高齢化が進んでいる。	
活動目標	地域の中にある、既存の会議や活動と連動して、地域住民の方と専門職が定期的に情報交換ができる場と、当事者や地域住民が交流できる場を作り、早期発見、相談、対応につながる環境を構築する。	
活動内容 (具体的取組)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センター（以下「包括」という）の周知と出張相談の場として、地域で行われている百歳体操や食事サービスなどの既存活動の場へ定期的に参加した。 ・交流と相談どちらもできる場所を他機関の活動（認知症当事者の野菜販売や金塚ミニマーケット）と組み合わせて行った。 ・各地域で地域関係者や関係機関と情報共有し、地域について考える場として小地域ケア会議を立ち上げた。 ・地域より、より効果的な周知方法としてチラシの見た目を変えてはどうかと提案を受け、チラシの内容を定期的に更新し掲示した。 ・地域関係者からの依頼があり、町会の会議や民生委員会議に出向き、地域包括支援センターの役割や機能の紹介をし、相談窓口としての周知を行った。 ・地域のまちなか防災訓練やイベントに参加し、幅広い世代と連携を図った。 	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	定期的に地域活動に参加したことにより、顔の見える関係性が構築できつつある。 包括の周知が進むことで、地域住民や地域関係者からの相談につながってきている。 他機関の活動と組み合わせた交流の場では、少しずつ相談が入るようになってきた。 小地域ケア会議を立ち上げたことで、地域関係者の声を聴くことができ、関係機関も含め地域課題に取り組んでいく基盤ができた。	
今後の課題	周知活動は進んできているが、地域住民からどこに相談したらよいかわからないという声も依然としてある。 地域活動の場に継続して参加することで顔の見える関係性を強化していく。 小地域ケア会議等で、地域活動に参加する顔ぶれが固定化していると意見があがった。 新たな参加者が増えるような取り組みが必要である。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 7 年 7 月 2 日 (水)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性・拡張性 <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input type="checkbox"/> 独自性	
評価できる項目 (特性) についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	あらゆる機会をとらえ、説明、広報を行い、前法人より引き継いだ地域課題の解決に向け地域とともに取り組んだ。その成果として地域住民や地域関係者からの相談も増えている。新たに小地域ケア会議を立ち上げ、地域住民と関係機関をつなげ、専門職と定期的に情報交換できる場を構築した。	

課題対応取組み報告書

【共通】

名称	阿倍野区中部地域包括支援センター		
提出日	R7	年	6月4日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設（居場所づくり等）
	<input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援	<input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
	<input type="checkbox"/> その他（ ）	
活動テーマ	つながる・つなげる地域づくり③ ～気にせず気にかける見守り体制づくり～	
地域ケア会議から 見えてきた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生活課題の複雑化、多様化していることで、支援体制は整っても、解決に至るまでにはかなりの時間がかかり、見守り体制を整え、見守りを継続していく必要がある。 ・精神疾患や認知症の方への理解促進。 	
対象	地域住民及び地域の支援者	
地域特性	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者は自立していることが多いが、その子に精神疾患の疑いがあり、支援を要する状況にあるが、当人達は支援を求めているため、継続的な見守りが必要。 ・精神疾患や認知症で周辺症状がみられるケース等において、地域から入院や施設入所を望む声が聞かれる。 	
活動目標	<p>①複雑化・多様化している相談に対して早期発見できるよう、精神疾患や8050問題・ヤングケアラー等についての啓発活動の継続実施。</p> <p>②地域で顔の見える関係づくりの継続により、地域で孤立させない、孤立しない、つながるつなげるを実践し、住民同士の見守り活動の促進及びネットワークづくりを進める。</p>	
活動内容 (具体的取組み)	<p>①啓発活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の理解（講演会）を3地域共に地域の実情に合わせて開催した。 A 地域では、「家族介護者の理解とサポートの在り方」B地域では、「睡眠薬と認知症の関係性について」 C地域では、「認知症になっても住み慣れた地域で過ごすために」 その他、食事の見直しを図り、調理意欲を高め、バランスのよい栄養確保をすることで、フレイル予防及び認知症予防ができることについて栄養講座を開催した。 ・精神疾患の理解と関わり方（講演会）を精神疾患や8050問題ケースが多い地域で開催し、地域住民や民生委員等地域の支援者に対して開催した。 ・各地域で、見守り訪問の実施や地域情報誌を地域と作成し配布することで、相談窓口の周知などを図った。 ・地域の郵便局やコンビニに見守り協力の周知を行った。 <p>②つながる・つなげる地域づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小地域ケア会議の開催や地域活動に参加することで、顔の見える関係づくりを継続した。 ・障がい関連機関や医療介護連携室と研修会を開催することで、多職種連携を図った。 ・見守りについては、各地域活動や地域の催しに参加した際に、意識しすぎず日頃と違うと感じた時に、相談いただけるような見守りを推進し、住民同士の見守りの促進を図った。 ・ヤングケアラーに関しては、地域の子ども食堂や子どもから高齢者まで参加する地域の催しに参加し相談窓口を設置し周知等を行った。子ども達が参加する地域の催しに参加することで、子ども達が相談できる大人として認識してもらい機会を持った。 	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症、精神疾患の理解を深める活動により、地域住民や民生委員などの地域支援者が、我がこととして対応してくださるケースも増え、連携も取りやすくなり、見守り支援の輪が広がった。また、郵便局などに相談窓口の周知をしたことで、直接相談を頂けるようになった。 ・小地域ケア会議の開催や地域活動に参加することで、連携強化を図ることができ、気軽に相談していただける関係を保つことができた。 ・一部の地域ではあるが、子ども食堂や地域の催しに参加し相談窓口の周知をしたことで、子ども達に相談できる大人として認識してもらえ、子ども達から声をかけてもらえるようになった。 	
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症への理解は格段に認識されてきているが、精神疾患に関しては、未だ地域から排除する傾向が強い。 ・高齢になる前の方を支援する機関がなく、高齢になってから困るケースも多くみられているため、高齢になる前の方を支援する方法や支援する機関が必要。 ・昨年同様、見守り体制ができて、対象者自身が支援拒否や支援が必要であることを認識できないケースがあり、法的な対応方法も見当たらず、長期間の見守りを強いられるため、関係者が疲弊するような状況も見られる。 	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 7 年 7 月 2 日 (水)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性・拡張性 <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input type="checkbox"/> 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント	<p>十数年にわたり地域の生活を支えてきたという実績もあり、地域とは密な関係性が保たれている。各地域の課題や実情に合わせた講演会の開催しており、さらにヤングケアラー支援の視点から、高齢者に限定せず、地域の子どもの視野を広げ、活動を広げた。また、フレイル予防の観点から栄養講座を催したり、障がい関連機関や医療介護連携室と研修を開催するなど、多職種との連携を図っている。</p>	
* 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。		

課題対応取組報告書

【共通】

名称	阿倍野区地域包括支援センター
提出日	令和 7 年 6 月 7 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設 (居場所づくり等) <input checked="" type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	チャレンジ!「誰にでも優しいまちづくり」～支えられる人も支える人も～	
地域ケア会議から 見えてきた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅生活が可能な時期に包括への相談が上がってこず、重症化してから相談に来るケースがある。 ・介護予防対象の高齢者自身に今後の自身の年齢の重ね方や終末期のあり方のビジョンがない。 ・つながりのない高齢者が身近に集いやすい居場所が不足している。 	
対象	地域住民 (支えられる人・支える人)	
地域特性	<p>【長池地域】区の南東に位置し、昔ながらの民家が多いが、駅周辺や地域南部には単身者用のマンションも多い。駅周辺は栄えており大型スーパーも複数あるが、その間の地域には少ない。東西の交通の便が悪く、町会加入率は低い。単身者用のマンションも増えてきており、地域とのつながりを持たない人が増加している。</p> <p>【清明丘地域】区の南西に位置し、戸建ての家が多い。南側は坂が多く、高齢者には移動が厳しい。スーパーなども少なく買い物不便である。若い世代が多いが、近所付き合いが少ない。地域活動が活発。</p> <p>【阪南地域】区の南部中央に位置し、長屋といった昔ながらの民家とマンションが混在している。空き家も多くみられる。小学校や公園が少ない。大型マンションが2か所ある。地域の複数の活動を同じ人が担っていることが多い。</p>	
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・元気な高齢者が、今後の見通しを持ちながら健やかに年を重ねていけるよう様々な情報提供の機会を設ける。 ・集合住宅の建立が増加している地域事情を鑑み、生活支援体制整備事業などとも連携しながら更なる包括支援センターの周知活動を行い、早期介入につなげることをめざす。 	
活動内容 (具体的取組)	<ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護の制度について学ぶため、住民に関心の高いテーマとして相続の基礎についての講演会を開催した。 ・在宅医療・介護連携支援コーディネーターと連携し、高齢者自身に将来の見通しをもっていただくことを目的にACPやエンディングノートについての住民向け講座を開催した。 ・地域において包括保健師による「げんきんぐ講座」を企画し、認知症予防やフレイル予防など、日々の生活の中に介護予防を取り入れることを伝え、参加者同士でもつながりの持てるワークなどを実施した。 ・生活支援体制整備事業担当者とともに清明丘地域10か所の集合住宅 (計629軒) に包括周知チラシの配布を行った。地域で開催される配食サービスや喫茶などにもできる限り足を運び、包括周知の機会とした。 ・幅広い層への周知をめざし、定期的な「包括LINE」の配信を行った。包括の周知だけでなく、時候に合わせた健康情報や、地域で開催されるイベント等の案内も掲載し、関心を持ってもらえるように内容を見直した。 	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	<ul style="list-style-type: none"> ・相続に関する講演会では、参加した住民自身が「我が事」として将来を見据えた対策を行う一助となった。 ・地域で開催した健康講座を通じて、日頃の生活に取り入れやすい介護予防の知識や方法の提供をすることができた。 ・様々な機会を捉えての包括周知や集合住宅でのチラシ配布により、「話を聞いて」「チラシを見て」と包括へ相談に来られる人がいたことから、ある一定の周知活動の成果はあったと考えられる。 ・包括LINEを通じて開催されるイベント情報を知り、足を運んでくださる方もおり、一定の効果は認められる。 	
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者自身が課題意識を持たず、孤立しているケースも少なくない。地域とのつながりや介護予防に対して、引き続き働きかけが必要である。 ・高齢者のみならず、「8050」など、同居の家族も課題を抱えるケースが増加している。問題が深刻化する前に早期に関わりが持てるよう周知啓発活動が必要である。 	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 7 年 7 月 2 日 (水)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性・拡張性 <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input type="checkbox"/> 独自性	
評価できる項目 (特性) についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	集合住宅の建立が増加する中、チラシ配布などの周知活動の結果、「チラシをみた」と相談に来る人もいたこと、毎年続けて地域の課題を地域と共有し、課題解決策を地域と一緒に考える機会をもうけている。地域住民向けに在宅医療・介護連携支援コーディネーターと連携し、ACPやエンディングノートについての講座や保健師による介護予防の講座を開催するなど、専門職をうまく活用し正しい情報を伝えた。包括LINEを通じて、新たにイベント等に参加する人も増え、地域の輪を広めている。	